

第8期 第1回自治基本条例推進委員会 検証部会 会議録（概要）	
開催日時	令和8年5月18日（月） 午後4時30分～午後6時
開催場所	阪南市役所別棟2階第3会議室
出席者	【検討部会員】 壬生部会長、田中委員、嶋津委員、谷口委員、小谷委員 5人出席 【市】 市民共創課（金田課長、奥野、橋口）
傍聴人数	0人
議題	重点テーマの選定について 等
資料	資料1 自治基本条例推進委員会検証部会名簿 資料2 重点テーマの選定に向けた意見交換用資料 資料3 阪南市総合計画（中期基本計画）2026～2029 資料4 阪南市デジタル田園都市構想総合戦略 本編 （第3期阪南市総合戦略）【2025年度～2029年度】
議事内容	【開会】委員の変更に伴う委嘱報告、人事異動に伴う事務局職員変更報告 【議題1】 （事務局） 配布資料も参考にしながら、日々の生活や地域活動の中で感じている課題等、自由に意見を出していただきたい。 （部会長） 第1回目ということで、今期の阪南市自治基本条例推進委員会として自治基本条例の検証を進めるにあたって、どういう形に着目して重点的に検証していくべきか、その方向づけをするための意見出しを行いたい。 今後は、本日いただいたご意見を事務局と私で整理を行い、次回（約2ヶ月後を予定）に提案をする。その際、そのテーマを検証するにはどういった点に着目すべきか、また、どのような資料が必要かについても協議できればと考えている。 さらにその2ヶ月後の3回目には、事務局が準備した資料に基づき、検証作業を進めていく。具体的には、現状の評価や課題の洗い出し、追加で必要となる情報の検討などを行いたい。この一連の検討を経て、最終的に検討部会としての結果を委員会へ報告する、といったスケジュール感で進める予定。 今回の検証でも条文ごとの確認は事務局にお願いし、随時報告を受ける形をとる。まずは気付いたことを何でもたくさん挙げていただければと思う。 （部会員） 解説文の検討はどうか。 （部会長） 今回行う議論を、解説文に反映する場合もある。また、別の視点で解説文だけを見ながらというやり方もある。まずは、いったん重点テーマの選定から行う。

(部会員)

自治会連合会の総会で議論になった住民センター。また、小中学校の跡地利用について。旧泉鳥取高校や里海公園等、大阪府との連携もある。観光振興としては里海公園以外では山中溪も重要。

(部会長)

活動の場所をどうするか、また、今ある財産をどううまく活用するか。そして他の関連する団体とどう連携していくか。

(部会員)

里海公園など本市の観光資源については、ここ数年、意欲を持って取り組んでくださる事業者の方々も現れているが、なかなか目に見える成果や結果に結びつかないという現状がある。担い手が全くいないわけではなく、そういった方々が、ある程度安心して自由に活動できるような「仕組みづくり」を条例に落とし込んでいくことが重要ではないか。条例の理念を、実際の具体的な形に変えていくための支援体制を明確にすべきと考える。

(部会長)

今の貴重なご意見を整理すると、「担い手は実は存在している。その方々がよりしっかりと活動できるように支援する仕組みが大切だ」。単に不足しているものだけを探すのではなく、すでにあるリソースや仕組みを確認し、そこから足りない部分を検証していくというアプローチで、非常に重要な視点。

(部会員)

緑ヶ丘地区では、住民同士でまちづくりの実現に向けた話し合いを進めている。市内では現在、子ども食堂などのボランティア活動が非常に活発であるが、成功事例を実際に現場で見学し、地域で取り入れる流れが各地に広がっている。情報の広報や周知については、文章よりも「現場での見学」や「直接の交流」が効果的で実現への近道だと感じている。

担い手不足や高齢化は大きな課題であるが、若い世代や子どもたちにもボランティアの意義を学んでもらう取り組みを進めている。募集をかけてもなかなか人が集まらないのが現状であるが、「ロコミ」や「声かけ」によって協力を得られるケースが多くある。

(部会員)

自分の地域では「まちづくり協議会」という枠組みが馴染みにくいと考えているが、賑わい創出などができるよう役員で話しあっているところ。

(部会員)

行政が保有する個人情報、ガバメントクラウドを介して管理されているという報道等を見聞きし、阪南市としての体制がどのようになっているのか、実態を知りたい。

(部会長)

情報の管理は非常に重要なテーマ。現状がどうなっているかを確認すること

は必要。ただし、技術的な詳細をここで議論するのは難しいため、情報の取り扱いについては事務局から可能な範囲で資料をいただき、今後の検証材料としていければと思う。

(部会員)

先日、人権推進委員会主催の講演会に参加した。せっかく外部講師を招き予算をかけて実施しているのに、講演が終わり次第、関心を持つ参加者同士の交流や講師への質疑応答の機会もなく終了してしまうのは非常に勿体ないと感じた。今後は講演で終わらせず、興味がある人が残って語り合えるような「緩やかな繋がり」を生む仕掛けが必要ではないか。

(部会長)

研修を実施して終わり、ではなく、そこからどう次の展開へ繋げるか、どのような仕掛けがあれば参加者が動き出せるかという視点は、人権に限らずあらゆる場において重要。今後の検証では、「協働」を生み出すためにどのような仕掛けが効果的か、というテーマで議論するのも面白いかもしれない。

(部会員)

緑ヶ丘では自治会報を毎月発行し、住民への情報提供に努めているが、地区によって広報の頻度や体制に格差はある。情報共有の維持継続には多大な労力とコストを要する。

また、マイナンバーカードを用いた行政サービスの利便性や、医療機関・薬局間でのデータ共有の凄さを日々実感している。医療現場での情報共有は有益だが、同時にサイバー攻撃や個人情報漏洩といったリスクも感じている。

(部会員)

まちづくりの基本として、市民全員が情報を等しく共有し、誰もが公平に暮らせるシステムがあるか再確認すべき。「合理的配慮」の観点から、高齢者や障がいを持つ方々など、情報やアクセスから取り残されがちな層が現状どうなっているか。「フラットな社会」に向けて、そういう視点が基本になるのでは。

(部会員)

移動支援についても、支援を必要とする住民へ情報がきちんと行き届いていないことが課題。行政も社協も、一生懸命していただいているが、高齢化が進む中で、いかに情報を必要な方へ確実に届けるられるかが重要。

(部会長)

皆さんの関心事には共通の軸があると感じた。まず、情報の管理や共有、そして必要な人に情報が届いているかという点。次に、制度を動かすための「仕掛け」づくり。また、高齢化に伴う担い手の育成や、今、頑張ってくださいっている方々がさらに活躍できる環境づくり、そして行政・社協・市民団体がどう連携していくかという話も挙がった。これらは今までの検証でも言ってきた部分で、重点テーマとして整理できるかと思う。住民センターに関しては、活動拠点の確保として捉えることもできる。

また、合理的配慮という話が出たが、おそらく担い手不足や情報も関わってくるので、そういう入口があってもいいかもしれない。

今日出た「情報」「担い手」「連携」「仕組みづくり」「フラットな社会」といったキーワードを大きな柱として、いただいた意見を整理し、掘り下げていきたいと思う。次回は整理した項目案について、内容の過不足がないか確認をお願いしたい。その上で、各テーマを検証するためにどのような点をチェックしていくべきか、具体的な進め方を話し合いたい。まずはいただいた意見をしっかり拾い上げ、検討の枠組みを事務局とで整備する。

(終了)